

フォーラムエイト

伊藤裕二社長が語る成長戦略

V R 技術活用で社会課題の解決へ

今年もラリージャパンを支援



FORUM8ラリージャパンのオフィシャルパートナーとして出展したサービスパークの同社のブースは今年も人気コーナーとなっていた



月面走行シミュレータ(FORUM8ラリージャパンの展示)



メタバースイベント「ラリーゲームチャレンジ」



FORUM8ラリージャパンにて展示した公道最速シミュレータ

◆自動車産業との親和性
フォーラムエイトが「ラリージャパン」のタイトルスポンサーに名乗りを上げた背景には、長年にわたる人的つながりがあった。取引先であるトヨタ自動車や豊田市

といたった誘致関係者らとの交流の中で、冠スポンサーが不在の状況を知り、伊藤氏は支援を決意したという。

一回もサービスパークで「公道最速シミュレータ」(トヨタの勝田貴元選手らトップドライバの走行を実際に体験で

少ない地域でも夏場に訓練ができる環境を提供し、事故の抑止と即応力の向上、人材不足の解決を狙っている。

件をバーチャル空間に忠実に再現できる技術が、公的な入札において決定

大阪・関西万博や各種の結させることはできない。だからこそ、体験シミュレータという分野の価値

◆◆◆
最速のVR・シミュレーション技術を携え、国の方針である「国土強靱化」と「地方創生」「文化支援」など、伊藤社長は「これからさまざまな側面から社会課題に挑み続けたい」と述べている。



伊藤裕二社長

自治体DX・防災から宇宙まで広がる事業領域

ターの需要が極めて高く、当社のソフトとモータースポーツの世界は非常に高い親和性を持っている」と語る。

現在、国土交通省を中心にプラットフォーム整備が進められているが、要自動車メーカー(OEM)に広く採用されており、例えばトヨタ自動車では約50の部門、本田技

動を後押しし、物的被害は免れなかったものの「人的被害ゼロの実現」を達成した。

豪雪地帯に向けては、同社開発の「除雪支援システム」を発表。降雪の

その柔軟性が高く評価され、公的な事例として、公開入札で北海道警の運転免許センター向けに36台の講習用安全運転シミュレータを導入でき

のかを、仮想の運動モードを用いて克明にシミュレートすることに成功し、

膨大な電力とサーバー代を要するAIシステムに対し、人間の脳はわずか5〜6ワット、10歳未満の電力で高度な思考をしている。投資対効果(ROI)の観点からも、将来的には「人間の方が安価で優れている場面もある」との考えから、社内ではAI支援開発のガイドライン策定や設計レビューの強化を進めている。

世界最高峰のラリー競技「世界ラリー選手権(WRC)」の日本ラウンドである「WRC FORUM8 ラリージャパン2026」が5月に開催された。フォーラムエイトは今年もタイトルスポンサーを務め、大会運営を支援している。同社は、1987年の創業以来、建設・土木分野の構造設計・プログラム開発を原点とし、現在はVR技術、シミュレーション技術、メタバース開発までを手掛ける総合ソフトウェア企業へと成長を遂げている。代表取締役社長の伊藤裕二氏に「ラリージャパン」支援の経緯、そして最新の事業動向、技術革新を通じて見据える「日本の未来像」について聞いた。

きる)を展示し、多くの観客に楽しんでもらえたという。

◆防災・減災と地域DX
同社が今、最も注力している領域の1つが、自治体と連携した「データ基盤の整備」と「防災・減災」への取り組みである。

秋田県仙北市との間で提携協定を締結し、本格的なデータ基盤の共同構築に乗り出した。

◆宇宙分野へも展開
フォーラムエイトの強みは、道路や交通、自然環境を柔軟に生成できるパッケージソフトおよび開発環境(SDK・ミドルウェア)の提供力にある。

現在では大学や研究機関だけでなく、各地の免許センターやドライビングスクールにもその導入が進んでいる。

◆体験価値の重要性
急速にAIが発達する現代において、伊藤氏は「この「生の体験の価値」への共感、ラリージャパンへの支援に加え、松任谷由実(ユミン)の全国ツアー(全72公演を予定)への協賛など、同社の文化支援にも一貫して表れている。

一方で、プログラミング現場におけるAI依存に対しては「AIにコーディングを任せきりにすると、人間の設計・プログラミングスキルそのものが形骸化してしまうのでは」と警鐘をならす。